中期経営計画 2030　Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時 ： 2026 年 5 月 29 日（金） 13:30 ～ 14:30

出席者 ： 代表取締役　社長執行役員　　井上 智弘
　　常務執行役員　経営企画本部長　　伊藤 剛史

＜電子先端材料の事業戦略について＞

Q: 説明資料に詳細な記載のある IC ケミカル以外の事業についての戦略を伺いたい。放熱材製品は、従来、半導体製造装置部材（静電チャック）向けの放熱材としての販売が主力だったが、フィラー（TIM 材向け）はどれくらいポテンシャルがあるのか。また、シリカは従来 CMP 用途が中心だったが、これから先、どの分野の伸びが期待できるのか。
多結晶シリコンはマレーシアに進出し大きな損失を出した過去があり、OTSM は同じ地域で再チャレンジということになる。勝算について言及いただきたい。

A:フィラーは、パワー半導体や EV 向けでの需要拡大に加え、AI データセンター用途での採用も一部見込まれている。従来はシリカやアルミナが主に使用されていた分野であるが、近年はより高い放熱性能が求められており、当社フィラーの採用拡大が期待される。
シリカの今後の新たな取り組みとして、封止材用途などについてお客様からご提案・引き合いを受けている。また、シリカの原料についても高機能用途への期待が高まっている。こうしたニーズを確実に捉え、お客様との対話を深めながら、設備増強および技術開発を進めていく。

過去の多結晶シリコンの損失に関するご指摘については十分に認識している。今回、先端分野を中心とした半導体需要の拡大を見据え、増設の検討を進めてきた。加えて将来的にグリーンな多結晶シリコンへの要求が高まることを踏まえ、製造拠点については国内（徳山製造所）と海外の双方を比較検討し、グリーン電力が調達しやすい海外拠点に決定した。先端用途の成長とグリーン化のニーズを踏まえて、事業として勝算があると判断した。

＜ライフサイエンス 既存事業の伸びについて＞

Q: ライフサイエンスで長期的に伸びていくのは体外診断用医薬品ということだが、2030 年度までは既存事業の伸びも大きいと思われる。具体的にはどの事業が該当するのか。

A: 歯科器材とプラスチックレンズ関連材料の伸びを期待しており、特に歯科器材は安定的な成長が期待される分野と位置付けている。

以上